

27PE-pm062

理札氏薬物学(第四卷)にみる薬物

○菰田 綾佳², 木村 壮太郎², 澤田 彩⁴, 小松 直登³, 林 優樹⁷, 森田 祐基⁵,
西野 ゆり⁶, 西野 正雄⁷, 宮本 如奈¹, 高倉 弘士⁸, 畠山 有理⁹(¹同志社大学
(文), ²府立藤井寺高校, ³府立東住吉高校, ⁴府立西浦高校, ⁵科学技術学園高校, ⁶府立
長野高校, ⁷府立富田林高校, ⁸立命館大学大学院(社), ⁹長崎大学(薬))

「はじめに」・・・明治五年に刊行された理札氏薬物学は、アメリカの戒施理札著、備後福山の小林義直訳の一五冊一七巻の書物である。第四巻全文を解読し紹介する。

「内容」・・・理札氏薬物学は、一六巻で構成されている。漢字とカタカナ、時にカタカナを付けた英語により表記されている。第四巻では植物強壯薬として衝動苦味薬を扱っており、エウパトリウム、カモミール、セルヘンタリア（セルヘンタリアチンキ、セルヘンタリア流動チンキ）、アングスチュラ、カスカリルラ、没薬（没薬チンキ）、リリヲデンドロン、マグノリア、アキルレア、アンゲリカ、コントルエルハ、マルリュビューム、橙皮（橙皮糖剤、橙皮糖煉）、桂皮（桂皮チンキ、桂皮酎、芳香散、芳香蜜剤）、白桂、ウィンテラ、肉豆寇、麻斯（揮発肉豆寇油、肉豆寇酎）、丁字浸、（丁字油）、ヒメンタ（ヒメンタ油）、黒椒（黒椒油脂、長椒）、キュベバ（キュベバチンキ）、カルダモム（カルダモムチンキ、複方カルダモムチンキ）薑（乾薑チンキ、乾薑糖煉、野薑、菖根）、茴香（茴香露水）、葛縷子（葛縷子油）、亜泥子（亜泥子油）、胡荽子、刺賢垓爾（刺賢垓爾酎、複方刺賢垓爾酎）、迷迭香（迷迭香油）、薄荷（尋常薄荷、馬薄荷、カタリア）、サルビア、ゴールゼリア、ヘデヲマ（ヘデヲマ油）、メリッサ（オリガニウム）、ゼームスなど87種に関して記載。

「考察」・・・これらの衝動性苦味薬は多少の衝動性と強壯力を併せ持つ。苦みと揮発油の両成分で食欲、消化作用を整える。温浸物を多量に用いると分泌を促進し、特に皮膚、腎臓に効果し、多量だと吐下薬となる。今日では健康食品として使用されている植物が明治初期頃から存在したことがわかる。